＜あらすじ＞

中世ぐらいのころ。

エリスは口が聞けないごく一般的な女の子です。

両親が死んでしまいおじいさんの家に引き取られたエリスは、

地元の子供たちからそういったことで嫌がらせの対象になっていました。

そんな時、いつもエリスは相手のことをじっとにらみ返すのでしたが、

それがなおさら生意気だと言われてしまうのでした。

ある時、町外れにある洞窟（祠？）に入らされることとなったエリス。

何か奥に行った証拠を持ってこないと出してもらえないエリスは、

いやいやながら奥に向かうのであった。

そこで見つけた地面に突き刺さる杖（剣？）を持ち帰るために引き抜いたとき、

まばゆい光に包まれエリスは気を失ってしまう。

「なんてことをしてくれたんだ…。」

声がしてエリスが目覚めると、目の前には宙に浮く光の塊が…。

なんとエリスは100年前に勇者が自分とともに封印していた魔物を解き放ってしまったのです。勇者に言われて急いで外に出たエリスは、石化したいじめっ子たちを目にし、

慌てておじいさんの家に帰ると、

そこには立ち尽くしたまま石になっているおじいさんの姿がありました。

悲しみにくれるエリス。

勇者は言います。

「この呪いを解くためには、再び魔物を封印するしかないだろう。

君はあの杖を抜いてしまったが、

それは君がすごい力を持っているということでもあるんだ。

君ならおじいさんを助けることができるかもしれない。

ただしそれは辛い戦いになるだろう。

やってくれるか？」

エリスは力強く頷きました…。

＜登場人物＞

・エリス

　主人公。口が聞けない。10歳くらい。赤髪。

　たったひとりの家族であるおじいさんを困らせたくない、と思ってる。

・勇者

　100年前の勇者の魂。自分の体と共に魔王の魂を封じ込めたが…。

・おじいさん

　エリスの現保護者。エリスの両親が死んでしまったので、身寄りのないエリスを引き取った。優しいおじいさん。

・子供達

　ある女の子を筆頭にして、エリスにちょっかいをかけてくるやつら。赤髪で口のきけずよそ者のエリスは格好の標的。

・魔物

　悪い奴。複数いる。

<敵の目的>

魔王は悪魔的な存在。

召喚されて知恵を貸すような存在であったが、

ある日人間をそそのかしてこちらの世界に降臨しようと企む。

（不老不死とかそのへんの言葉を使って、人間の魔術師をたぶらかした）

しかし思いのほか人間が用心深い性格だったのか単純に用意できなかったのか、

不完全な状態で呼び出され魂だけの存在になってしまった。

魔王は魔術師に取り付き、

まずは手足となる４体の魔物を呼び出した。

そして多くの人々の魂（命）を生贄に、

自らの肉体を召喚しようと試みるが、勇者に敗北し封印されてしまう。

そしてエリスの時代、

蘇った魔王は勇者の肉体を奪って再び肉体の復活を試みる。

しかし思いのほかエリスが頑張ったので、

予定ほど人間の魂が集まらず、エリスとの戦いにも負け、

不完全な状態での復活を余儀なくされてしまうのであった。

そのため肉体がこちらの世界に定着できずに、たまに消えかかってしまう。

するとなんか心臓っぽいのがむき出しになるので、そこを攻撃して倒すんじゃないかな。

<召喚ってなに？>

向こうの世界から悪魔的なあれを呼び出すこと。

呼び出すものの大きさによって同じサイズのものを向こうに渡さないといけない。

いわゆる等価交換。

今回の場合は、魔術師が思ったより材料を用意しなかったので、

魂だけで肉体は持ってこれなかった。

魔王は結構でかいのでかなりの量が必要だったのである。